

アグリ | ワーク | ポイント



中干し後の
管理と病害虫
防除対策

岡部営農経済センター 池田昌行

中干し後の管理

間断かん水は、浅水程度に水を入れ、水が無くなっても1〜2日そのままにし、再び浅水程度に水を入れる作業を繰り返すことです。根の張りを良くし、倒伏や秋落ち防止・登熟向上に繋がります。穂肥を施肥する場合は、充分たん水をして3日間は止め水で行いましょう。

高温障害対策

こまめな間断かん水で根の機能活力維持を図ります。特に日中の気温が35℃、夜温が25℃を超える日が続く場合は、かけ流しかん水を行いましょ。乳白米の発生を抑える場合は、夜間通水をしてほ場内の夜温を下げてください。出穂後5〜15日が高温障害加害に対し効果があります。

病害虫対策

出穂期前後に病害虫の被害を受けると米の品質、収量に影響します。育苗期にエバーゴルプラス箱粒剤を使用した場合は、ウンカとカメムシの防除、それ以外を使用した場合は、ウンカとカメムシに加え、紋枯病やコブノメイガ、ニカメイチュウ、イネツトムシの防除が必要です。昨年、管内でコブノメイガの被害が発生しているため、注意しましょう。

粒剤の場合

リンバー粒剤 4 kg/10 a (収穫30日前まで)

液剤の場合

ディアナSC 5000倍 (収穫7日前まで)
モンカットフロアブル 1000倍 (収穫14日前まで)

斑点米カメムシへの対策

斑点米は、等級を落とす大きな原因です。斑点米カメムシは、畦畔や耕作放棄地などのイネ科雑草で暮らし、イネが出穂すると穂を吸汁します。出穂10日前までに畦畔やほ場周辺を除草してください。

防除の1回目は穂揃い期に、2〜3回目は前回散布から7〜10日後に散布します。粒剤の場合は、液剤散布より3日前に散布してください。なお、日中暑い場合は朝か夕方に、雨が多い時は晴れの合間をみて散布しましょう。

粒剤の場合

スタークル粒剤 3 kg/10 a (収穫7日前まで)

スタークル豆つぶ 250g/10 a (収穫7日前まで)

穂いもち病の多発地区は、イモチエーススタークル粒剤 3 kg/10 a (収穫35日前まで)

液剤の場合

キラップジヨーカーフロアブル

1000倍 (収穫14日前まで)

スタークル液剤

1000倍 (収穫7日前まで)

穂いもち病多発地区は、ブラシンフロアブル

1000倍 (収穫7日前まで) を混用で散布